



# けやきだい

## 三つの“宝”

を大きく育てます

- ①心身のたくましさ
- ②未来を拓く知恵
- ③ふるさと所沢を愛する心

教師一人一人が力をつけ、学校力を高め、子どもの生き抜く力を育む

## 書物にあたり 見識を高め 議論を重ね

所沢市教育委員会教育長 中島秀行

年末に一人日帰り、滋賀、京都、大阪にある4か所の寺に「見仏」に行ってきた。さすがに年の瀬も押し迫っている、どこも参拝者は疎らで、仏像と語り合うなら、この時期が一番である。底冷えのするお堂の中は、普段より身が引き締まり心地よかった。

今回のお目当ては今年の干支にあやかって「<sup>ぐんだりみょうおう</sup>軍荼利明王」である。腕や脚に白蛇を巻き付けている。ちなみに蛇は煩惱の象徴で、その煩惱を断ち切り、様々な障難を追い払ってくれるらしい。顔は1つ、目は3つ、腕は8本と恐ろしげだが、インドの神々の流れを酌んで躍動感がある。3本の指を立てた2本の腕を胸の前で交差している姿も格好いい。どこかの芸能人のように「ウィッシュ」と声を出しそうになるが、れっきとした<sup>だいしんいん</sup>大瞋印という<sup>いんそう</sup>仏教の印相である。

滋賀金勝寺の軍荼利明王は、4m近い巨体を薄暗いお堂に納めて迫力満点だったが、やっぱり東寺の軍荼利明王がもっともバランスがよくて一番の「推し」だ。誰もいないお堂の中で仏像と対面しているだけで、「りきみ」が抜けて心が軽くなってくる。日常の些事に追われていると、段々と発想が貧困になり、視野が狭くなり、本質を見る目が曇って、判断を誤りそうになる。だから、こうして時々、日常から離れた場所で過ごす時間を大事にしている。今回も来てよかった。

世間では、教育に関して様々な意見が飛び交っている。無償化やら給与をあげることや教員の業務改善やら…。不登校も闇バイトも対策を考えろとか、朝も放課後も子供を預かる仕組みを作れとか…。いずれの要求も、現場から離れたところにいる、いわゆる外側の人たちの意見が先走りしている。本当に子供のためなのか、本当に教育現場のことがわかっているのか。子供や教職員の声置き去りになってはいないか。「子供」や「教育」という言葉の裏に「大人」の利益が隠されている。そして、そのことを現場の教職員が理解できているか気がかりだ。

「<sup>えげんけんしん</sup>慧眼見真」という言葉がある。「知識や知恵によって本質を鋭く見抜き、正しく観察する眼をもつ」という意味である。昨今は、SNSやインターネットの中の情報が、あたかも「煩惱」のように溢れ、多くの人が囚われているようだが、これを断ち切り、正しい知識を身につけ、自分自身の目で見て考えて行動することが、何より我々教育に携わるものには重要になってきている。どこかの誰かの不確かな情報に左右されず、自身の<sup>けいがん</sup>「慧眼」を磨く努力をすべきだろう。多くの書物にあたること、様々な場所に出かけて見識を高めること、多くの人と議論を重ねること、今年もそのことに「金」と「時間」を惜しまない、そう心に決めて旅を終えた。

今年は巳年、蛇は再生と成長の象徴である。脱皮を繰り返し成長する「蛇たち」のように、ニョロニョロと紆余曲折しながらも、一皮むけた成果があげられるよう取り組んでいきたい。

### 教育支援センター「クwest」とは

教育センター内にある、教育支援センター「クwest」を御存じでしょうか？

クwestでは、「不登校」・「登校しぶり」で教育センター相談室に相談に来ている小・中学生を対象に、面接相談や活動を通して、心の安定や生活リズムの回復を図るとともに、社会的自立や学習意欲の向上を促し、学校生活への復帰、並びに社会生活への適応を目指します。

#### 【クwest入室の流れ】

- 他の相談と同じように、教育相談室へ保護者から申し込みいただきます。  
↓
- 「不登校」が主訴の相談の場合、児童生徒が来所できないことも多くあります。まずは、児童生徒が来所できるように、本人の気持ちに寄り添いながら面接を行います。  
↓
- 本人の来所が安定し面接が進んだ段階で、保護者に入室の説明をし、学校を通して「入室願」の手続きを進めていきます。  
↓
- クwestでは、主に面接相談の他、個々に合わせた学習や活動を行う個別活動、体験活動やグループワークなどの集団活動を行っています。本人の心理状態に合わせて支援方針を立て、適宜保護者や学校と連携しながら、学校への登校や社会的自立を支えます。  
※学校復帰した、若しくは、年度末になった時点で退室となります。  
※継続的に相談に来る不登校の児童生徒は、原則、入室となります。



個別学習



グループワーク

### もっと知りたい！もっと知ってほしい！クwest Q&A

教育支援センター「クwest」を詳しく知っていただくために、クwestについて保護者や先生方からよくある問い合わせを中心にまとめました。

Q. 小学生でもクwestに入れますか。

A. 入ることができます。教育支援センター「クwest」は、不登校の小・中学生が対象です。クwestの入室届を受理した時点で入室完了となります。

Q. 活動について知りたい。

A. 小学生を対象とした「個別活動」と、小学校6年生～中学校3年生を対象とした「集団活動」を行っています。「個別活動」は週1回1時間（曜日や時間は応相談）、「集団活動」は週3回（月・水・金）行っています。

Q. クwestの来所は出欠席の参考にできますか。

A. クwestに入室している児童生徒が、教育相談室に来所した日は、校長判断で指導要録上、出席扱いにできます。出席簿上は欠席となりますので、C4th の記入は、教育支援センターの「セ」を選択してください。

詳細は C4th内の書庫 → 教育センター → 教育相談室 にある資料をご覧ください。

学校では様々なアプリケーションが授業で使用されています。今回は、それぞれ授業場面を踏まえた有効なアプリケーションを紹介します。

## (1) 導入・課題提示・見通し

目的	有効なアプリと使い方
① 興味・関心を高める。	① Kahoot! の選択問題を使って楽しく復習できるようにする。
② 課題への意識付けを図る。	② デジタル教科書で動画や画像を示し、課題意識を持てるようにする。
③ 学習の見通しを立てる。	③ Classroom に単元の流れを示し、毎時間、子供と確認する。
④ 自己の目標を立てる。	④ Classroom にルーブリックを提示して自分の目標を設定させる。

## (2) 展開 (個別最適な学び)

目的	有効なアプリと使い方
自分に合った学習方法を選択し、試行錯誤することで、学習を深める。	schoolTakt や Google スライドに映像等の資料や思考ツールを載せることで、子供が学習方法を自由に選択できるようにする。
	学習に必要なサイトの URL を Classroom や schoolTakt に貼り付け、子供がいつでも参照できるようにする。

## (3) 展開 (協働的な学び)

目的	有効なアプリと使い方
他者と考えを共有し、比較・検討することで、更に学びを広げ、深める。	schoolTakt の共同閲覧機能を使い、いつでも他者と考えを共有したり比較したりできるようにする。
	schoolTakt の黒板機能や Google ドキュメントやスプレッドシート、スライドによる共同編集機能を使い協働学習を促進する。
	schoolTakt のコメント機能を活用し、子供がお互いの考えや表現のよさに気付けるようにする。

## (4) まとめ

目的	有効なアプリと使い方
学習した内容を子供の言葉でまとめ、全員で共有し、その定着を図る。	schoolTakt のワードクラウド機能を使ってキーワードを抽出し、全体で本時のまとめをする。
	ミライシードのドリルパークで子供がそれぞれの理解度に応じた問題を選択して解くことで、学習内容の確実な定着を図る。

## (5) 振り返り

目的	有効なアプリと使い方
一人一人が学びを捉え直し、自身の変容を自覚する。	schoolTakt や Google スライド、ドキュメント等のワークシートに子供たちの振り返りを蓄積し、次時の授業に生かしていく。
	振り返りの観点を明確にした Google Forms を作成し、子供たちが自己の変容を確かめられるようにする。

どんなアプリをどのように使うと効果的かを考えて、授業における ICT 機器の活用を進めましょう。



「不易流行」は、『広辞苑（第五版）』には「（芭蕉の俳諧用語）不易は詩の基本である永遠性。流行はその時々の新風の体。共に風雅の周から出るものであるから根本としては一である」と記載されています。元々は俳句の世界の言葉だったものが、現代では「いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものをも取り入れること」として、経営理念として経済界でも用いられています。学校教育において変わらないものは、「子供の力を育成する」という教育の根本です。その根本（不易）を達成するためには、時代の流行（ICTの活用、等）を取り入れることが不可欠です。

今年度、所沢市立教育センター実践研究員では、昨年度から「主体的・対話的で深い学びを実現するために活用するICT」というテーマのもと、理論と実践に基づいた研究を進めてきました。ICTの活用はあくまで指導法（流行）の1つですが、その目的は先行き不透明な社会をたくましく生き抜く子供の資質・能力の育成（不易）です。今年度の研究発表会では、2年間の研究を終えた3つの実践研究部に加え、6つの専門研究部が研究成果の報告を行います。研究員以外の先生方も参加可能ですので、奮って御参加ください。

令和6年度所沢市教育委員会研究発表会及び合同研修会

令和7年2月7日（金）

研究員の活動を通して、指導力のレベルアップを目指してみませんか？研究員に興味のある先生方は、ぜひ発表会にお越しください。

【集 合 型】（会場）教育センター 13:30開始（受付13:10より）



〔内容1〕研究員による実践報告

- I 実践研究 **共通テーマ**「主体的・対話的で深い学びを実現するために活用するICT」
  - 算数・数学科 ○社会科 ○図画工作・美術科
- II 専門研究 ○国語科 「個別最適な学びと協働的な学びを実現する国語科の授業の研究」
  - 算数・数学科 「数学的な見方・考え方を生かした授業展開の工夫」
  - 社会科 「個別に適した学びと協働的な学びを実現する児童の育成」
  - 理 科 「児童生徒の自己評価能力の育成」
  - 道徳科 「多様な価値観の中で自己を見つめ直し、考え議論する児童の育成～他者の繋がりを意識した道徳科の実践～」
  - 特別活動 「友達のよさを見つけ、自分のよさにも気づく児童の育成～自己肯定感を高める学級活動～」
- III 委託研究（ESD 調査研究協議会）
- IV そ の 他（長期研修） （※Ⅲ及びⅣはオンデマンド型のみで報告）

〔内容2〕全体指導者による教育講演 指導者：東京学芸大学 教育学部 教授 西村 德行 氏

参加方法

- 【集 合 型】教育センター研修申し込みから
- 【オンデマンド型】教育センターGoogle サイト 専用ページよりアクセス

所沢市内の教職員の方は、こちらから教育センターGoogle サイトの閲覧が可能です

